

# ①竿下狙いのスタイル

アジをメインにイワシ・小サバ・ホツ葉グレなど、足もとに潜むあらゆる魚がターゲットです。釣りは、基本的には竿下に仕掛けを投入してアタリを待つだけでOKです。仕掛けを潮に乗せて撒き餌との同調をはかるスタイルではないので積極的に打ち返すのがよりよく数を釣るコツです

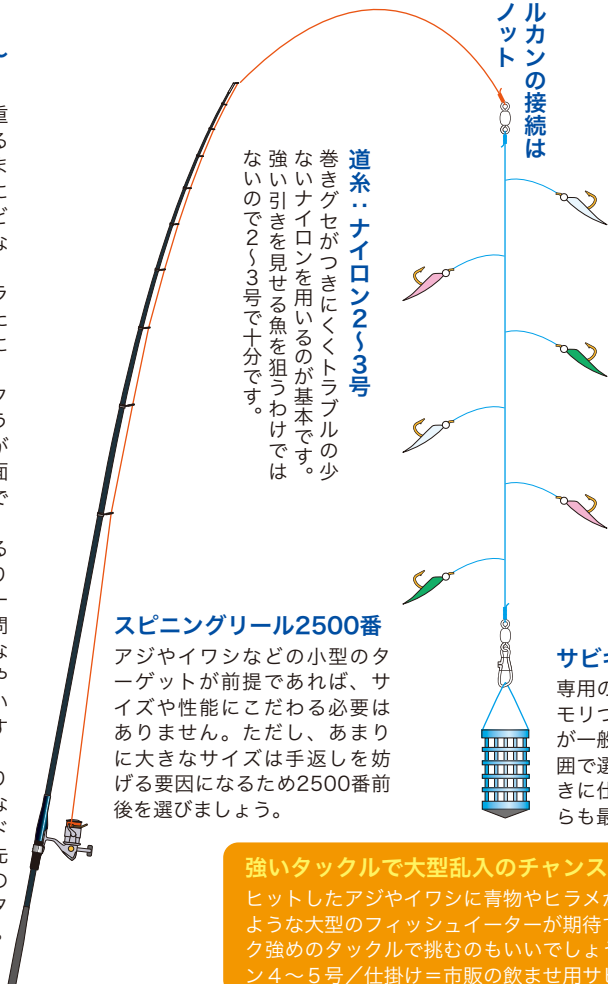
## 磯竿1.5～2号、のべ竿4.5～5号硬調タイプなど

使用する4～6号といったやや重めのオモリに負けない強さのある竿を使うことで釣りやすさが高まります。使用するサビキ仕掛けによってはアジやイワシが5連など複数掛かることもあるため磯竿なら1.5～2号はほしいところです。しなやかな竿先を有するこのクラスなら、アジやイワシが掛かったときによくあるハリ穴の広がりによるバラシも抑えられます。

あまりにやわらか過ぎるとピックアップ時に曲がり過ぎて思うように仕掛けを扱えず、手返しが上がらないばかりか釣果を波止の壁面に当てて落とすなどの不具合がでるためおすすめできません。

一般的な仕掛けの全長を考慮すると、2号以上の長さがあれば釣りは可能です。したがって、ルアーロッドやポートルードなどでも問題ありません。磯竿と比べてしなやかさが失われるぶんバラシがやや増えるものの、取り回しがよいだけにビギナーにはむしろおすすめといえます。

その他、仕掛けの長さぶんで探りきれぬ水深であれば、リールがないぶん手返しがよいうえ、ガイドへの仕掛けの巻き込みによる穂先の破損といったトラブルがないのべ竿（胴のしっかりとした硬調タイプ）を用いるのもおすすめです。



道糸…ナイロン2～3号  
巻きグセがつきにくくトラブルの少ないナイロンを用いるのが基本です。強い引きを見せる魚を狙うわけではないので2～3号で十分です。

道糸とサルカンの接続はクリンチノット

## スピニングリール2500番

アジやイワシなどの小型のターゲットが前提であれば、サイズや性能にこだわる必要はありません。ただし、あまりに大きなサイズは手返しを妨げる要因になるため2500番前後を選びましょう。

## 市販の小アジ用サビキ仕掛け4～7号

ハリの号数はターゲットのサイズに合わせて選びます。豆アジなどの10号前後のサイズであれば4～5号、15～20号クラスで6～7号といった具合です。

ハリ数が多いほど釣果アップが期待できますが、仕掛けが長くなるぶん扱いにくさが生じ、ハリ同士のカラミや糸ガラムミなどのトラブルが起こりやすくなります。標準は全長1.5号前後の6～7本バリですが、扱いにくさを感じる場合は半分にカットして使用しても問題ありません。

そして、擬似バリにはハゲ皮やサバ皮などの魚皮、ゴム製のスキんタイプ、ウイリーと呼ばれる毛糸が巻かれたものなど、いろいろな種類があります。そのうえ、白、ピンク、オーロラ加工、発光するケイムラや夜光など、カラーも豊富です。食いがよいときはどのサビキを使っても釣果が上がりますが、ときには種類やカラーを選び好みをすることもあるのでタイプの異なる仕掛けを複数持参したいところです。

## サビキ用のドンブリカゴ4～6号前後

専用の吸い込みバケツがあるなど、餌を入れやすいオモリつきのカゴを仕掛けの下部にセットする下カゴ式が一般的です。号数は使用する竿で無理なく扱える範囲で選択します。あまりに軽いと釣れた魚が暴れたときに仕掛けが大きく揺れて糸ガラムミが多発することから最低でも4号以上をセットしましょう。

## 強いタックルで大型乱入のチャンスをもノに!!

ヒットしたアジやイワシに青物やヒラメが食いつくサブライズがまれにあります。そのような大型のフィッシュイーターが期待できる釣り場であれば、以下のようなワンランク強めのタックルで挑むのもいいでしょう。竿＝磯竿3～4号5号前後／道糸＝ナイロン4～5号／仕掛け＝市販の飲ませ用サビキ仕掛け（ハリス3号前後でハリ6号程度）